

フィリピン滞在記 ⑨---フィリピン料理は単純だが、奥が深い(2)

為我井輝忠

前回フィリピン料理の全般的な特徴を述べてみたが、実際には地方によってもそれぞれ違いがあるし、また外国からの影響もある。

外国からの影響と言うと、スペイン料理の流れもあるが、やはりそれよりも中国料理の影響が強いのではないだろうか。スペインは数百年の間フィリピンを統治していたので、食べ物に対してもスペイン的なものをたくさん残している。旅行をしていた際に、あるホテルで朝食を食べた時、スペイン風オムレツというのがあった。しかし、中国人はスペイン人の来比よりももっと前にこの国に来ており、その影響はかなり大きい。特に、庶民の食べ物の中はかなり浸透している。

フィリピンを旅行していると、どこに行っても中国料理店があり、フィリピン料理に飽きた時には中国料理を食べるのがちょうどよい。ただ、中国本土で食べる中国料理とはいささか違うところがある。味付けがフィリピン風で、味付けが濃く、甘く感じられる。

マニラのチャイナタウンに行くと、本格的な中国料理は食べることが可能である。香港の飲茶のようなものから北京ダックのようなものまで食べることが出来る。しかし、こうした典型的な中国料理に対して、フィリピン風中国料理と言ってもよ

いものがある。例えば、春巻きは日本でも見られるごく普通の中国料理であるが、ここでは「ルンピア」という名前で存在する。しかも、「ルンピア上海」とか「ルンピア・ウボット」という具合にいろいろな種類があり、中国料理店だけでなくごく普通のレストランでも食べることが出来る。これはもう普通のフィリピン料理になってしまった。

もう一つ「シャオマイ」と言う中国風のスナックがある。これは「シュウマイ」を連想させるが、実物は「肉マン」や「アンマン」と同じもので、これは屋台でも食べ物屋でもコンビニでも、どこでも見かける庶民的な食べ物の一例である。ちょっとお腹がすいた時に格好なおやつである。何度か食べたことがある。

餃子はどういう訳かフィリピンでは見かけない。マニラのチャイナタウンでは「北方餃子店」という店があり、ここで食べることが出来るが、一般的には全く見たことはなかった。恐らくフィリピンに渡来した中国人は広東省や福建省あたりからの南方人なので、餃子は持ち込まなかったのだろう。

「チョップスイ」という八宝菜か野菜炒め風の野菜が中心の料理もある。これは東南アジア各国でよく見かけるものである。これは味付けがあっさりしているので、時々食べることがある。ただど



パンシット：ビーフンと同じようなパンシットは、ごく普通のフィリピン料理となっている。



チャプスイ：安価で、しかも野菜が多いので、よく食べることがある。



大きなスーパーでは「巻きずし」が販売されているが、値段は少々高めである。

こでも量が多すぎて、一人の時など半分も残してしまう。

他にも中国人がもたらした食べ物は枚挙にいとまがない。最後に、麺料理について少し紹介したい。フィリピン人は麺(ヌードル)料理が大好きである。スーパーをのぞくと、インスタント麺売り場が大きな面積を占めていて、20種類以上はあるのではないだろうか。大きな店では日本や韓国のももかなり売られている。よく見かけるのは、中国からも持ち込まれた「パンシット」という焼きそばがある。これには「パンシット・カントン」とか「パン



「しゃぶしゃぶ」というので注文したら、これは麺の入ったスープだ。



「たこ焼き」の屋台。これはフィリピンの人々の好きな食べ物である。

シット・ビーフン」、「パンシット・パラボック」等がある。普通の汁そばもあり、「マミ」や「ロミ」という名前で知られている。

日本料理に関しては、中国料理ほど普及していないと思われる。マニラなどには日本料理店はたくさんあるが、しかし、中国料理店ほど全国津々浦々にあるわけではない。大きな都市に限られている。

豆腐については前号で紹介したが、その他には大きなスーパーでは巻きずしが売られているのを目にする。その場で作り販売しているが、値段はやや高めで、そんなに買う人はいないような気がする。また、たこ焼きの屋台をよく見かける。看板に日本語で「タコ焼き」と書かれているので、すぐ目につく。これは安くて人気がある。しかし、食べたことはない。ある時、カフェに入った時メニューに「しゃぶしゃぶ」と書かれていたので物珍しさで注文したところ、出てきたものを見て驚いたことがある。それはスープ状の麺で、最初間違っ出てきたのかと思ったほどである。このように日本料理と言っても実際見たことがない人が作っていることがあり、異文化体験の上で大変興味を覚える例である。